

山車とともに伝わる祭りばやし

# 鯉沢ばやし

(町指定無形民俗文化財)



鯉沢は、江戸時代から、富士川舟運の要衝の地として大いに賑いました。舟運は、多くの物資と共に様々な文化を各地から伝えてきました。そのひとつがこの「鯉沢ばやし」で、京都の祇園囃子、江戸のお囃子が微妙に入り混じっている祭りばやしとされています。

鯉沢に今も受け継がれている4台の山車の上で演奏され、祭りの雰囲気大いに盛り上げてきました。大太鼓、締め太鼓、笛、鉦によって演奏され、代々口伝により山車を持つ各丁目ごとに子供たちに伝えられてきましたが、現在では、「鯉沢ばやし保存会」の結成により統一された曲として伝承されています。

保存会には、中高年から婦人、学生、子供たちが所属し、定期的におはやしや創作太鼓を練習し、祭りやイベント等で披露しながら伝統芸能の継承を行っています。

## 鯉沢ばやし保存会



※継承されている地域

